

資料 5-1

令和 7 (2025) 年 1 月 1 6 日
 総 合 教 育 会 議
 教育総務課・学校教育課

五中と東中の統合に関する説明会〔令和 6 (2024) 年 9 月 2 9 日〕概要報告

1 日 時 令和 6 (2024) 年 9 月 2 9 日 (日) 午前 1 0 時～1 1 時 4 0 分

2 会 場 第五中学校体育館

3 出席者

- (1) 参加者 2 9 名
 (2) 事務局 6 名 本間教育部長、田辺教育総務課長、矢沢学校教育課長、
 山之内学校教育課主幹、布施教育総務課長代理、茨城教育総務課係長
 (3) 報道 2 名 朝日新聞、柏崎日報

4 会議概要 進行 布施課長代理

- (1) 開会あいさつ 本間教育部長
 (2) 概要説明 田辺教育総務課長
 (3) 質疑 下記のとおり

発言者	発言概要
保護者	学区等審議会を設けないが、今後の統合の話し合いの進め方の説明をお願いしたい。
教育総務課長	あえて言わせてもらおうと、今日も含め、今後も我々は統合を前提での話し合いになる。令和 4・5 年度の学区等審議会で統合の可否は十分議論させてもらった。今後はこのような会を開き皆さんから不安なども含め意見を頂戴していきたい。
保護者	今後は、地域住民を通して話し合いをしていただけないのか。
教育総務課長	この場で意見を聞かせてもらいながら、この場で回答していきたい。
保護者	今後は説明会が行われないのか。
教育総務課長	説明会は今日が最後ではない。
保護者	今日、出席できなかった人もいると思うので、ぜひ、地域住民の声を聞く機会を設けてもらようようお願いしたい。 高柳地区の人が東中学校へ通うとなれば、通学距離が 1 9 キロと長く大きな負担である。東中学校ではなく五中に通わせたい。統合は地区だけでなく、市全体を通して考えてもらいたい。
教育総務課長	まず、子ども達のエデュケーション環境を優先させたい。小規模の良いところもあるが、ある程度の人数は必要である。生徒数だけと言われるかもしれないが、生徒数も大事。五中だけに限って言えば、今後も増加する見込みがなく、厳しい。 中央教育審議会が行ったバスのアンケートが全員に当てはまるわけでないが、2 0 ～ 3 0 キロの距離を通っている生徒もいる。通学距離が長くなることによって、保護者や生徒にとって負担になるが、時間にすると 1 0 分～1 5 分長くなる。その時間を是非ご協力願いたい。

保護者	2 点ほど 子どもにアンケートを実施してみてもどうか。 学びの多様化学校について、集団生活が苦手の人がそこに通いたい場合は、在籍校は東中か、それとも五中になるのか。
教育総務課長	以前にも話はあったが、子ども達へのアンケートは取る予定はない。教育委員会や五中の教職員は五中がすばらしい前提で教育活動を行っている。仮に、アンケートの結果が五中より東中が良いとなったら大きな問題である。
学校教育課長	統合に関わらず、集団生活の苦手な子が各学校にいるが、不登校ぎみの子は各学校が I C T を活用しながら対応している。学びの多様化学校については、まだ、具体的に決まっていないが、統合が決まり次第、具体的な利活用を考えていきたい。
保護者	アンケートの中身については、五中の良さはわかるが、東中の情報が少ない。東中の良さも伝えてもらえれば。
教育総務課長	統合前に各学校で交流活動を行う。
保護者	私は、鯖石小、五中、市内高校に通っていた。2 3 年振りに柏崎の実家に戻ってきた。理由は 3 人目の子どもが不登校であった。 時代の流れで少子化は仕方がない。よりよい教育環境で学ばせることはわかるが、説明の中で 1 0 年後、2 0 年後の未来がみえない。今後、統合を進めるにあたって題材にしてもらいたい。 少子化になっている原因はあると思う。五中が統合されれば、次は鯖石小の統合話の未来予測が出来ると思う。そうすると、この地、柏崎市にどういった影響が出てくるのかももう少し考えていただきたい。私は過疎化が進み、ここで子育てをする人がいなくなると思う。 少人数である学校に学区外に通っている子どもの状況を把握しているか。学校になじめず五中だから通えている子どもを把握しているか。実際、上の子どもは 1 学校 1 0 クラス、通学に 1 時間かかっていたため家庭学習の減少が見られ、学力の低下につながった。 以上、質問ではなかったが、聞いていただきありがとうございます。
学校教育課長	小規模校のメリットは一人一人に目が届きやすく支援しやすい。一方、これからの時代に身に付けたい力、主体的・対話的で深い学びは生徒数があまりにも少ないと班編成やグループ分けに制限がかかってしまう。また、音楽や体育の教職員の配置が出来なくなり、部活動の選択も出来なくなってしまう。高校進学を見据えた場合、交友関係を広げるための人数が必要。子ども達にとって 1 0 年後、2 0 年後を見据えている。 学区外就学については把握もしているし、場合によっては、教育委員会に諮って審議してもらっている。
教育総務課長	資料の中で県内市町村スクールバスの状況を載せているが、ある市議会議員から今回の説明の中でより詳しく提示してほしい依頼をいただいたが、他市が行った調査のため公表が出来なかった。ただ、あえて言うと通学距離が長いのは中越地区の山沿いである。 バスの通学時間だが、柏崎市内では徒歩通学も含めて多くの時間をかけて通学している学校もあるため、今回、示させていただいた通学時間に関して、それほど苦痛な時間だとは思っていない。 過疎化については、再来年に計画する第 6 次総合計画において検討していきたい。

- 保護者 : 説明のあった、中央教育審議会でのスクールバス乗車のストレス結果は、私がネットで見ると、サンプル数が少なく判断できないとなっていると思う。根拠を教えてください。
- 教育総務課長 : 中央教育審議会の資料はないが、手元には鳥取市が作成した根拠資料がある。そこにも「気象等に関する考慮要素が比較的少ない場合におけるデータであって、注意が必要」との記載があり、我々も承知している。そのため、県内小・中学校の通学距離の状況を補足データとしてお示しさせてもらった。
- 地区住民 : 小規模特認校について考えてくれて有難いのだが、当時の説明会で教育委員会は小規模特認を考えていないと回答があったが、なぜ、小規模特認校を北条小に置くのか教えてください。
また、学びの多様化学校について、市としての考えや上越市や糸魚川市が設置の検討をしていると思うので、その情報も流してほしい。
- 教育総務課長 : 小規模特認校については、これから統合する鯨波小、米山小、中通小でも同じ意見をいただき、検討した結果である。なぜ、北条小を選んだかは、公共交通機関が他の地区より多くあるから。ただ、小規模特認校の是非の検討を開始するのであって、北条小学校が小規模特認に決定したわけではない。
- 学校教育課長 : 学びの多様化学校については、統合が決まってからより詳細を検討するが、現在、旧庁舎に不登校を対象とした「ふれあいルーム」が設置されている。これを五中に移行したいと考えている。理由としては、学校施設が子ども達によって良い環境と思えるため。
- 保護者 : 審議会の答申で、「通学時間の問題が大きいことから、時間短縮や負担軽減に十分配慮した通学バス運行計画を示し、保護者と児童・生徒の理解を得られるようにすべき」となっているが、しっかり説明したのか。保護者は大きな不安を抱えている中、どのような対策を講じたのか。それを行ったうえで統合再開の説明会をすべきでないか。
- 教育総務課長 : 今日、説明会を開催したのは意見を聞かせてもらう機会でもある。そのため再開である。不安があればこの場で聞かせていただきたい。
- 保護者 : 今後は、審議会を設けないとすれば、我々の意見はどこで反映されるだろうか。答申が出てから説明会は行われていないで間違いないか。
- 教育総務課長 : 昨年のアンケート報告会で、皆さんにお集まりいただいたが、アンケートの報告会のみである。
審議会の意見としては、ある程度的人数で教育を受けるべきともいただいている。そこを重要として捉えて統合を前提で話をすすめさせてもらおう。

以上